

1,研究テーマ

伊藤計劃『ハーモニー』文学研究

2,文献

『ポストヒューマニティーズ：伊藤計劃以後のSF』限界研 2013年 南雲堂

3,概要

現代のSFをテーマやジャンル、メディアで分けて論じている本である。

「好調な現代日本のSFにおいて中心的な主題になっているのは、日本的な文脈で咀嚼された〈ポストヒューマン〉的なリアリティと、脳科学やロボット学などの成果を用いたハードSF的な思考の融合。これこそが、現代日本SFで起こっていることであり、それこそが「日本SFの夏」を導いた最も重要な主題的な理由である。

〈日本的ポストヒューマン〉こそが、現代SFで中心的な主題になっている。そして、現代の読者は、この〈日本的ポストヒューマン〉にリアリティを強く感じる生を生きている。

〈日本的ポストヒューマン〉を現代日本SFの特質ととらえ、活況を呈する日本SFの中核を担う作家(伊藤計劃・円城塔・飛浩隆、瀬名秀明、長谷敏司、宮内悠介)の作品を中心に論考する。」(内容紹介より引用)

4,研究への活用

伊藤計劃の『ハーモニー』は2008年に発表された。本書『ポストヒューマニティーズ：伊藤計劃以後のSF』も2013年に発表された比較的新しい本である。

伊藤計劃や『ハーモニー』自体を扱う研究が少なく、その中のうちの貴重な一冊である。本書は「ポストヒューマン(人類進化)」(現代の人間に比較して劇的に能力が向上する、という仮説上の未来の種)という概念が、日本ではキャラクター文化に基づいた「日本的ポストヒューマン」として受け入れられ、SFに取り込まれている、という仮説が述べられている。

この本の論調を支持していく形で研究をするか、あるいは反対する形で研究をするかは未定だが、「伊藤計劃」や『ハーモニー』がこういった形で受け入れられているのか、を知る材料として扱う。